

賀川浩さんと U-18FLCC

2024年12月5日、サロンファミリーの訃報に触れました。賀川浩さんです。12月29日の誕生日で100歳を迎えるはずだった、日本、いや世界で最高齢のサッカージャーナリストでした。2015年にFIFA会長賞を、日本人で初めて受賞されたたレジェンドです。

9月にお会いしたときに少しばかり話をすることができました。葬儀で流された「ラストメッセージ」がそれです。「やっけても、みても、きいても、話しても、おもしろい遊び」と、賀川さんは大好きなサッカーを“遊び”と表現されます。その本質は「まるいもんを、四角い枠のなかに蹴り込むだけ」です。NPO サロン2002が主催するU-18フットサルリーグチャンピオンズカップ(FLCC)の得点王が「賀川浩賞」なのは、この“遊び”の本質を言い当てたレジェンドに敬意を表したものです。この報告書も『游 ASOBI』ですね。

賀川さんは日本のサッカーについて、「こんなに短い時間に強くなった国もないし、こんなに短い時間に技術の進歩した国もない」と評価されます。「学校の先生方をはじめとして、それぞれのポジションの人が一所懸命やって来ました」と。そして、「進歩のあとを止めないように」と願い、そのために「いままでやってきたことを、手抜きをしないで続けることが大切」だと語られます。ほぼ100年生きてこられた賀川さんから、温かい言葉で励ましエールをいただいたと感じました。

本報告書の冒頭に、賀川浩さんの追悼記事を掲載しました。FIFA会長賞受賞祝賀会で配布されたパンフレットの再掲です。

続いて、toto助成を受けて実施した二つの公開シンポジウムの報告を掲載しました。8月の「U-18女子フットサルを語ろう！」と11月の「部活動で学んだことを語ろう！ー筑波大学附属中高蹴球部の近現代を中心に」です。5月の公開サロン「大戦前の日本サッカーー二つのルーツ校を中心に」も掲載しました。100周年を迎えた筑波大学附属中高蹴球部のあゆみがほぼ網羅されるでしょう。賀川浩さんが歩んでこられた100年にも重なります。

歴史から学ぶことは多々あります。先人たちのあゆみを踏まえて「いま」を評価し、そのうえで「これから」に目を向け、「手抜きをしないで続けること」が大切です。

2025年度で、U-18FLCCは10周年を迎えます。この10年で全国各地のU-18フットサル環境は大きく前進しました。しかしまだまだできること、すべきことは多々あります。U-18女子フットサルも「これから」です。さまざまな障壁や課題がありますが、それは「未来への可能性」だととらえ、地域の皆さんとともに乗り越えていきたいと思ひます。

NPO法人サロン2002の“志”は、「スポーツを通しての“ゆたかなくらしづくり”」です。年齢、性別、国籍、身分や立場など、あらゆる壁を超え、“志”に賛同する方々が集まるのがサロン2002ファミリーです。“同志”とのつながりは、このネットワークの最大の財産です。

“志”に賛同していただけるなら、私たちの仲間になりませんか？

2025年2月28日

特定非営利活動法人サロン2002

理事長 中塚義実

